

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス クローバーの家			
○保護者評価実施期間	令和7年1月25日 ～ 令和7年2月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年1月25日 ～ 令和7年2月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親の会である「肢体不自由者親の会クローバー」との連携により、行政や自治体、教育機関との連携が取れていること。	事業所単位では解決の難しい課題に対して、親の会との連携を行い、様々な課題解決を行っている。	新規に利用される方に対して、親の会の情報を伝えて、より多くの人に知ってもらう。
2	地域の保険、医療、障がい福祉、保育、教育機関との連絡調整や連携を、スキルと経験のある職員を中心に行なっていること。	管理者を中心として、外部機関との連携を密にとっており、支援を円滑に行うことができている。	連携した内容を、直接支援職員にも、より浸透する機会の設定、支援業務への反映が必要。
3	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っていること。	月2回の施設開放日の設定や、相談してもらえやすい環境づくりを行なっている。	より相談を受けやすいよう、ご家族と職員との信頼関係の構築につとめ、相談機会の設定、連絡ツールの見直しを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主として身体障がいや医療的ケア児者を対象としているため、歩行できる方との並行利用に関して、均一の支援を提供することが難しい。	重度身体障がい児者や、歩行できる方との活動スペースが、施設の構造上共通となっているため。	令和8年4月に新設する施設においては、活動スペースを障がい種別に分けて、よりそれぞれに特化した支援を行うよう準備を行う。
2	PDCAサイクルを中心とした、業務改善方法が浸透していない。	送迎や出勤時間にばらつきがあり、全直接支援職員に対しての意思疎通を図る場が限られている。	毎月行う職員会議には、参加者が重複しないように調整し、会議の始まりには前回の議事内容の見直しを行い、評価を行う。
3	職員の資質の向上を図るための研修や、外部機関への訪問等の機会の確保が充分ではない。	休業日がないため、集団研修の機会を確保できない。また、外部機関への訪問を行う機会の設定が全体でなされていない。	令和7年度以降を目処に、当施設を利用している方が関係している外部機関への訪問の機会を定期的に行い、業務改善に繋げる仕組みを設定する。